



第1部 講演

どう進める、
ポジティブ・アクション
～雇用の分野を中心に～

講師

鹿嶋 敬 (かしま たかし) さん
[実践女子大学人間社会学部教授]
[内閣府男女共同参画会議議員]

戦後から現代までの社会を振り返り、雇用における男女共同参画の状況を紹介しました。基本的な考え方として、具体的な数値目標を持った計画、固定的性別役割分担の否定、国際的な視点の必要性を述べました。

また、女性の労働状況がライフステージで大きく変化することをデータで提示しました。女性が仕事と家庭を両立するために、企業全体でポジティブ・アクションを実践して働きやすい雇用環境をつくることが重要であると結びました。

第2部 パネルディスカッション

男女共同参画の視点からの
震災復興と新たな地域づくり

パネリスト

石田 奈緒子 (いしだ なおこ) さん
[北茨城市副市長]

高橋 早苗 (たかはし さなえ) さん
[大洗町漁業協同組合女性部部长]

光畑 由佳 (みつはた ゆか) さん
[有限会社モーハウス代表取締役]

宗片 恵美子 (むなかた えみこ) さん
[NPO法人イコールネット仙台代表理事]

コーディネーター

林 寛一 (はやし かんいち) さん
[常盤大学コミュニティ振興学部
地域政策学科長]

男女共同参画の視点を取り入れた復興の取り組みについて、それぞれの立場で意見を交わしました。

▶ 北茨城市で震災復興に携わる石田さん—
震災時には市民の助け合いが多くみられました。今後の復興のためにも地域の力を結集しましょう。

▶ 漁業の現場で活躍する高橋さん—
漁業組合はまだ男性が多く、男性中心の分野にも女性が積極的に参画していく必要があります。

▶ 女性が働きやすい職場環境を築いてきた
光畑さん—

被災地に授乳服を届ける活動を行いました。震災は働きだけでなく生き方を考えるきっかけになりました。

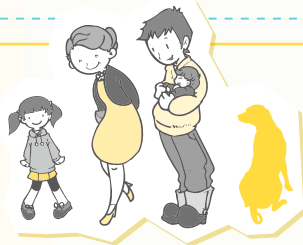
▶ 被災女性のニーズに合った支援活動を行った宗片さん—

震災復興が男性主体である状況が課題。今後は女性も積極的に震災復興に取り組むことが住みやすい街づくりや地域の活性化につながります。

用語
解説

ジェンダー

人間には生まれつきの生物学的性別(セックス / sex)がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的性別」(ジェンダー / gender)という。「社会的性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を含むものではなく、国際的にも使われている。



ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

男女が共に、人生の各段階において、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発など様々な活動について自らの希望するバランスで展開できる状態をいう。

ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会に係る男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいう。